

令和２年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校定時制課程

学校ビジョン	未来を拓く人財の育成		
中長期目標	1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊敬を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。 2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。 3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。	今年度の重点目標	1 自己実現に向けた教育の充実 2 豊かな人間性の育成 3 社会人としての意識の高揚 4 働き方改革の推進

年 度 当 初					最 終 評 価	
評価項目	具体項目	現状	具体目標	目標達成のための方策	達成状況・改善方策	評価
1 自己実現に向けた教育の充実	基礎学力の定着	○授業評価アンケート 「わかりやすい」 94% 「先生の熱意を感じる」 94% ○米東サポーター・特別支援教育支援員の配置により、落ち着いた学習環境を保つことができている。	○わかる授業を推進 授業評価アンケート 「わかりやすい」 90%以上 「先生の熱意を感じる」 90%以上 ○個に応じた学習指導の実施	○日常の授業公開の実施 ○授業評価アンケートを活用し授業改善を図る ○米東サポーターの活用	○授業評価アンケートで肯定的な回答をした割合は以下のとおり。 「わかりやすい」 91.7% 「先生の熱意を感じる」 94.0% 「授業に満足している」 90.7% ○米東サポーター・特別支援教育支援員の配置は、落ち着いた学習環境の確保に有効であった。	B
	教育課程の見直し	○新学習指導要領へスムーズに移行するための教育課程を検討している。	○新学習指導要領に対応した教育課程の編成	○四修制教育課程の円滑実施	○今年度から0限を実施し、円滑に進めることができた。 ○新学習指導要領に対応した教育課程の編成に取り組んだ。	A
	特別支援教育の充実	○2年次生全員にスクールカウンセラーとの面談を実施した。 ○配慮や支援を必要とする生徒に適切に対応するため、スクールカウンセラーとの連携を密にしている。 ○Q Uについて、スクールカウンセラーによる分析を共有しながら生徒理解に取り組んだ。 ○特別支援教育支援員による授業サポートによって、落ち着いた学習環境が確保できている。	○教育相談体制、特別な教育的支援を必要とする生徒への支援の充実 ○教職員の特別支援教育に対する意識向上 ○特別支援教育支援員の有効活用	○全職員による生徒情報の共有並びに支援 ○S C、米東サポーター、S S W、の積極的な活用 ○Q Uの有効活用 ○特別支援教育支援員の支援活動計画の作成 ○教職員の外部研修への参加推進	○生徒とスクールカウンセラーとの個人面談を前期・後期に実施し、生徒への適切な対応に繋がった。 ○Q U職員研修を行い生徒支援へのアドバイスや対応を話し合った。 ○コンサルテーションによって生徒の情報共有を行った。 ○特別支援教育支援員、米東サポーターによる授業支援により、生徒の困り感は少しずつ解消された。	B
	進路指導・キャリア教育の充実	○就職内定率88%、進学決定率83% ○ビジネスマナー講習会、地元企業見学を実施し、就職に対する意識づけを行った。 ○将来を見通すことができず不安を抱えた生徒がいる。	○就職内定率及び進学決定率100% ○就職指導、進学指導の充実 ○進路意識の早期啓発 ○キャリア意識の醸成	○HR、面接による就職・進学に対する心構えの徹底指導 ○ビジネスマナー講習会、卒業生講演会、地元企業見学の実施 ○キャリアパスポートの活用	○就職内定率68.3%、進学決定率66.7% (12月末現在)。 ○進路未決定の生徒に対しては、個別指導を継続して行う。 ○ビジネスマナー講習会を実施し、就職に対する意識づけを行った。 ○2年次生の進学希望者に業者テストを実施した。 ○潜在的な進路希望を読み取るために、キャリアパスポートを活用した。	B
2 豊かな人間性の育成	生徒会・部活動の活性化	○全国高等学校定時制通信制体育大会に、卓球男子、バドミントン女子、バレーボール男子が出場した。 ○生徒会執行部会を開催し、学校行事の活性化を検討している。	○生徒会活動や部活動、学校行事への生徒の主体的な取組の推進	○生徒の主体的な活動のための内容の工夫 ○生徒会役員との連携強化	○各部活動顧問と連携しスムーズな部活動運営を行った。 ○生徒会執行部会を開催し学校行事の活性化を検討した。 ○生徒会主体で、U N I C E F募金を2度実施した。	B
	役に立つ体験的な活動の実施	○体験活動に積極的に取り組ませることができた。 ○地元の資源体験（大山寺散策、バームクーヘン作り）を新たに実施した。	○地域に根ざした教育活動 ○体験的な活動をととした豊かな心の育成	○体験活動先との連携強化 ○新たな体験先の開拓	○体験活動先と連携し、コロナ禍においても感染予防対策を講じ、アウトドア体験・地元の資源体験を実施した。 ○地元の資源体験は、新たに「とっとり花回廊」で実施した。	A
	人権感覚豊かな生徒の育成	○県高等学校定通生徒生活体験発表大会で1名が発表した。 ○2度の人権教育講演会、公開の人権教育HRを実施した。 ○生徒は話し合い活動により自他尊重の体験をしている。	○人権LHRの充実 ○各領域での人権意識の育成 ○共に安心できる集団の形成	○人間関係作り、コミュニケーション能力育成のための教材の工夫	○人権教育講演会を2回実施した。 ○講演会後の話し合い活動によって、生徒は他者の意見を尊重し、自分の意見も受け入れられる体験を積んだ。	B
3 社会人としての意識の高揚	規範意識の醸成	○生徒は落ち着いた学校生活を送っている。 ○問題行動は発生しなかったが、始業時間への意識が低い生徒に対し指導を継続する必要がある。 ○職員間で生徒情報を交換、共有している。	○落ち着いた教育環境の維持 ○問題行動発生件数3件以下 ○皆勤及び精勤15名	○教職員間の情報交換の実施 ○生徒への日常の声かけの徹底 ○規律ある学校生活の徹底 ○保護者との連携	○大きな問題行動は発生しなかった。 ○生徒は比較的落ち着いて学校生活を送っている。 ○始業時間の徹底と学校規則の遵守について継続指導を行う。 ○日頃から教職員間で生徒の情報交換・共有が行えた。	B
	よりよい学習環境の整備	○ゴミの分別に取り組んでいる。 ○清掃活動は不定期に実施した。	○校内環境の整備	○ゴミの分別や減量化についての指導実施	○ゴミの分別に取り組んだ。 ○清掃活動は不定期であるが実施した。	B
4 働き方改革の推進	業務の効率化	○各行事を計画的に実施している。 ○主任と副査とが連携しながら分掌業務を行っている。	○円滑な業務の遂行	○計画的な事業の実施 ○分掌業務における主任、副査の業務を明確にする	○コロナ禍において事業の実施可否を判断するために、早めに連携先と連絡を取り、計画的に事業を実施した。 ○主任・副査が連携し、分掌業務を行った。	B

評価基準 A：十分達成した B：概ね達成している C：取り組みがやや遅れている D：方策の見直しが必要